布することがある。肝細胞壊死がびまん性に存在する場合には急性肝炎様、亜広範・広範肝壊死となれば急性肝炎重症型あるいは劇症肝炎様の病態を示し、慢性に経過した場合は門脈域の拡大とリンパ球、形質細胞、ときに好酸球浸潤、限界板の炎症性破壊（interface hepatitis）を伴い（図 9-組織画像)、慢性活動性肝炎の所見を呈する。

図9　門脈周辺域(zone 1)の炎症細胞浸潤および線維化。Interface hepatitisを伴う。

以下に肝細胞壊死の分布からみた分類とその特徴を記す。

○ **肝細胞壊死の分布からみた分類**

帯状壊死（zonal necrosis）

肝実質は肝小葉という組織学的単位の集合として考えられているが、機能的な面から acinus（細葉）という単位の集合として捉えられる。Acinus は門脈血流により、門脈域周辺域(zone 1)、小葉中間帯(zone 2)、小葉中心域（zone 3）に分けられる（**図 10**)。